



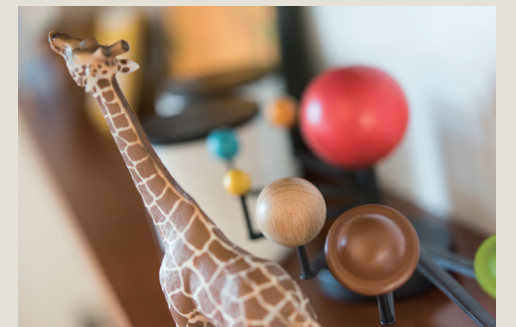
このあいだ、気がついたことがある。
お母さんが時々掛け替える2人の絵。
いつも同じ枚数ずつだったってこと。
絵を描くのが好きだ。
でも、もっと好きなのは、
「できたー」って見せに行く時の
お父さんやお母さんの笑顔なんだ。

The moment of mjuk!

—あなたが輝く時間を、mjukと呼びます—

有名な人の絵よりも
僕らの絵の方が好きなんて、
お母さん、ほんと？

正直ちょっと照れくさい。
幼稚園や低学年の頃に描いた絵は、
顔から手足が出ていたり、
色がすっごくはみ出したり、
「おかあさん、だいすき」
なんて書いてある。
字なんか、あり得ないくらい汚いし。
これじゃあ、今の弟と同じレベルだ。
お母さんは家の中を飾るのが好きだ。
家具とか食器とか置物とか
好みが結構うるさいはずなのに、
僕ら兄弟の絵になると、
さっさと「お気に入り」にして飾ってくれる。
こういうコーナーを
ギャラリーって言っただって、
お父さんもすごく気に入っている。




mjuk